

# 市民協働事業 相互評価シート

## 1 市民協働事業の概要

事業名称	令和2年度 港北水と緑の学校事業		
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク	
	行政	横浜市港北区	
事業の目的	港北区において、環境活動や防災活動が継続的に地域に根づくことを目指し、学校と連携し、流域の自然環境と防災などについて学習する体験型講座を実施する。また、広く一般区民向けの環境防災学習講座を実施する。		
事業の内容	(1) 小学校を対象とした環境防災学習講座の運営（18回） (2) 一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施（1式） (3) 展示会の運営（1式） (4) 報告書作成（1式）		
役割及び責任分担等	事業項目	受託者の役割	委託者の役割
	①小学校を対象とした環境防災学習講座の運営(18回)	1 講座の企画及び運営 2 参加校との事前打ち合わせ 3 教材・資料等の作成 4 アンケートの実施回収	1 参加校の募集・申込受付 2 教材・資料等の印刷 3 広報・PR
	②一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施(1式)	1 講座の企画及び運営 2 協力者との事前打ち合わせ 3 ちらしの版下作成・印刷 4 参加者募集事務 5 教材・資料等の作成・印刷	1 広報・PR
	③展示会の運営(1式)	1 展示会の企画及び運営 2 会場提供者との連絡調整	1 広報・PR
	④報告書作成(1式)	1 ①～③に関する報告書の作成	
⑤その他	1 第2条の事業目的を実現するために効果的と思われる取組の委託者への提案	1 上記①～④の他、第2条の事業目的に寄与する、受託者の自主的活動への後援や広報協力 (後援については、委託者が定める要綱に基づく申請を要する)	
実施期間	契約締結日から令和3年3月31日まで		

記入日	令和3年4月7日
・団体等名：	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク
・記入責任者 氏名：	阿部 裕治
連絡先：	045-546-4337
・部署名：	港北区区政推進課
・記入責任者 氏名：	亀田 裕佑
連絡先：	045-540-2230

# 1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができていたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

## ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

### ①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	B

### ②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

### ③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

### 3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

#### 事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

##### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 小学校講座では、新型コロナウイルス感染症の影響により、夏休み以降に実施を開始し、人数制限等対策をとることで、安全な事業の計画づくりができた。
  - ・各学校と感染症対策の内容を確認しあい、不安なく、安全な運営ができるよう調整した。
  - ・例年要望が多い魚とり体験は、ライフジャケットと網を使い回すリスク、除菌対応を含めることによってタイムスケジュールの調整が困難になることを考慮して、魚とり見学に変更した。
- 一般向け講座では、新型コロナウイルス感染症の影響により、森の動画によるPRに変更した。(水と緑の学校 Web ページへの掲載や小学生向け講座等での活用を予定) 森の動画制作にあたっては、初めての取組のため、撮影スケジュール・動画の構成など調整に時間を要したが、協議を重ねることで完成に結び付けることができた。内容は、どんぐりへの興味を手がかりに森の魅力や課題を知り、ひとりひとりの緑への関心を促すものとした。
- 展示会では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮し、WEB 展示会 (オリジナル HP を作成) へ開催方法を変更した。

##### 【今後改善が必要と思われること】

- 新型コロナウイルス感染症など、事業の途中で変更や修正が余儀なくされる場面が今後も多く出てくると予想されるため、柔軟な計画作りが重要だと感じた。
- 小学校向け講座について、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインによる講座や2年度に製作した森の動画の活用 (理科 4 年「秋の生き物」、「冬の生き物」、6 年「自然とともに生きる」の学習単元に関わる内容) など、柔軟に対応していく必要がある。

#### 事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

##### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 小学校向け講座の実施にあたっては、両者で安全に運営する方法を検討・確認し、3密対策やマスク着用、健康チェック、手指除菌用アルコールの準備などの対策を行い、実施状況を踏まえて適宜改善を図った。
- WEB 展示会の開催にあたって、コメント機能の導入やアクセス数の確認など、実施の途中で改善案に気づくことがあったため、来年度以降の取組に活かしてゆきたい。

##### 【今後改善が必要と思われること】

- 小学校向け講座について、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、オンラインによる講座や2年度に製作した森の動画の活用 (理科 4 年「秋の生き物」、「冬の生き物」、6 年「自然とともに生きる」の学習単元に関わる内容) など、柔軟に対応していく必要がある。

#### 事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- 進捗状況等の情報を共有し、必要に応じて対応の改善を図りながら、安全で効果的な講座が運営できるよう進めることができた。
- 小学校向け講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮して実施。講座をきっかけに感染症が広まるような事態は認められなかった。
  - ・体験活動によって子どもたちは足もとの自然とつながることができる。身近な自然に対する意識は変容し、興味関心が広がり深まってゆく。それは、大人、地域社会を変える大きな原動力となるため、今後も子どもたちが安全で魅力的な体験ができるよう継続して対応してゆきたい。
- 森の動画は、横浜市の youtube や当事業の Web ページに掲載される予定である。学校でも活用していただけるよう広報してゆきたい。
- 展示会では、WEB展示会に変更したことで、普段展示会に来ることができない子どもたちや保護者の方へ成果を披露するができた。
  - ・各学校の先生からは、多くの子どもたちが見ていること、他の学校や他の学年の作品がとても刺激になっていることをお聞きした。インターネット環境があれば、時間等に制約されず気軽に見れるのが、1つの大きなメリットだと感じた。
- 事業の発信として、WEB展示会では、広報効果が高い地域のインターネット新聞社等にも掲載された。展示会をインターネットで閲覧できるようにしたことで、より多くの方に事業を知っていただくことができたと思う。
- 鶴見川や支流の早淵川、矢上川で行った生きもの観察等の活動や、出前講座の水害、治水対策、水質改善等の解説を通して、鶴見川流域水マスタープランの洪水時水マネジメント、平常時水マネジメント、自然環境マネジメント、水辺ふれあいマネジメントの理解に寄与することができた。

#### 自由記入欄

- 協働の体制をとることで、相互の立場を理解し互いに補い合うことができた。